留学報告書 II（留学生）

塾内在籍校・学年（派遣時）	慶應義塾高等学校　2 年
留学先校名	Winchester College
留学期間	2019 年 9 月から　2020 年　7 月まで

留学に向けて、どのような目標を立てましたか？

Winchesterで求められるであろう能力を補うことを目標とした。例えば、英語力、Writingに必要な思考力、課外活動に向けての技術の向上などである。英語力については、単語力無しでは、根本的に英語力が改善しないと考え、単語を覚えることに重点をおいた。また、過去に留学した先輩が、日本人留学生として日本について知るべきと仰っていたので、日本史や日本の時事について勉強した。英国史も多少勉強したかと思う。そして、何をWinchesterで挑戦したいかも明確にするよう努めた。

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？　留学先の良かった点・悪かった点も教えてください。

Winchesterでの一年間は極めて充実していた。勉強、課外活動、寮生活、それぞれが満足のいくものであったからだ。留学前は少し心配であった寮生活は、何ものにも代え難い貴重な経験となった。僕の寮にいた全員、特に同級生の皆は、入寮当初から気にかけてくれる温かい人ばかりである。直ぐに寮の雰囲気には解け込むことができた上に、寮が最も居心地の良い場所になった。Housemaster（寮長）、Matron（寮母）の二人も本当に頼れる存在であった。皆、自分の寮に誇りがあり、僕自身もその一人となった。どの教科も素晴らしいもので、英語力は言うまでもなく、思考力、表現力といった能力も向上しただろう。また、一年にも満たない短い留学期間であったため、様々なことに挑戦し、密度の高い時間を過ごすよう心がけた。この学校の強みは、時間の制約が少なく、多様な機会が設けられていることだろう。実りある一年間となった。

また、英国滞在中に Brexit に関して様々な出来事があり、現地で体感できたのは貴重な経験だった。10 月の Brexit の延期、12 月の庶民院総選挙でジョンソン氏率いる保守党が圧勝、そして 1 月に EU 離脱と、Brexit の話題は尽きない。経済学や Div の授業でも Brexit について討論した。また、総選挙前後は学校内でも議論が盛り上がり、生徒主催の調査では、生徒の 8 割が保守党（離脱派）を支持する一方で、教員は主に自民党（残留派）を支持していたと思う。一部の教員は、軒先に EU の旗を掲げており、英国内の意見の分裂を目の当たりにした。総選挙翌日には Financial Times を購入し、冬期休暇には、国会議事堂を見学した。ニュースで見かける庶民院の議場に足を踏み入れたときは、ここで与野党の激しい合戦が起こっているのだな、と感慨深かった。

課外活動は何をしていましたか？

一年間を通して、運動、音楽、そしてその他の活動に参加した。運動は、一学期、二学期ともに塾高で練習していたホッケーを続けた。週4日大雨、霧、強風の日でも練習があり、英国の天気の不安定さにはかなり慣れてしまった。冬は特に寒かった記憶がある。週一回は必ず対外試合があり、近隣のボーディングスクールと対戦した。練習時間は多くないため、必ずしも平均的な選手の水準がとても高いわけではないが、Winchesterには州U-18代表の生徒が二人おり、彼らの能力には感銘を受けた。一学期の間は、未経験であったがRowing（端艇）にも参加した。端艇は英国での歴史が長く、自分自身も水上競技に興味があったのが参加した。これも週4日の練習で半分はBoathouseでのトレーニング、半分は学校内を流れる川で舟を漕いだ。初めて、川に出たと

きの感覚は忘れられない。
音楽では、日本で練習していたヴァイオリンを選択し、週一回、一時間のレッスンを受けていた。Winchesterで30年以上教えてきた先生には、奏法だけに拘らず、音楽の歴史的背景、また音楽理論を交えた解説をしていただき、新たな刺激を得ることができた。また、Community Service（社会貢献活動）でも、音楽系の活動に参加した。毎週水曜日に近隣の病院などへ生徒8人組と先生で合唱を披露しに訪問し、60年代の名曲などを歌っていた。歌が大変上手な生徒もおり、 Winchester生の多才さには圧倒された。
その他の活動では、Young Enterprise という会社経営を体験する Society（文化系部活動）にも参加し、革新的な文房具を開発、販売することに挑戦した。Young Enterprise は地区、州、国のレベルでコンペティションがある。僕は IT Director として、ウェブサイトの開発、資金調達の方法の検討などを担当し、州大会で Innovation 賞を頂いた。会社経営に興味があった自分にとって、これは極めて有意義な経験となった。この他にも、外部から大学教授や国会議員を招いたレクチャー、物理の Tasktime（授業とは別に行う発展問題を解く時間）にも参加した。
Winchester では挑戦したいことに余すことなく打ち込むことが可能で、最も大きな強みであると思う。

授業について（帰国まで）

授業の進め方・内容・レベルについて、日本の在籍高校との違いを教えてください。

生徒は3、4種類のPre-U科目（大学入学資格として認められる統一試験）とDiv（Winchester特有のDiscussion授業）を履修する。高校というよりは、大学の一般教養課程と称した方が実態に近いといえる。どの科目にも共通していえるのは、取り扱う範囲の広さ、内容の深さと面倒見の良さであると思う。教員の質が大変高い上に、少人数制の授業であるから、教育がきめ細やかなのは必然的であると言って良い。授業中に疑問があれば直ぐに質問し、DivのDiscussionでは主体的に参加することが大切であった。
Further Maths：Winchesterでは3種類の数学系科目がある。その中で最も難易度が高いのがFurther Mathsである。僕は、最上位クラスに在籍していた。このクラスは「Top Set Further Maths」と呼ばれ、学年で最も数学力のある生徒十数人が集結していた。半分近くの生徒が、黒ガウンを着たCollegemenであったと思う。内容は日本の高校数学の水準を超え、教員の趣味のような分野もあった。授業は、半分が講義、半分が演習（グループワークもあり）という形式で、時限数が多いため学習する範囲は広い。最初は既習範囲の違い、数学用語の英語表現（「complex conjugate」といった単語や、英語での数学的帰納法の解き方など）に戸惑ったが、すぐに追いつくことができた。
物理：物理も大学範囲の分野が半分近くを占めていた。具体的には、量子力学、特殊相対性理論、微分方程式を用いた放射性崩壊や単振動の記述が挙げられる。これ以外では、力学、波動、電磁気を習った。日本の物理と異なるのは、用語の定義や現象の説明を問われることが多いところである。論理性は常に重要であるので、大切にしてほしい。
経済学：日本の経済学部の1、2年生が扱う題材が多く、ミクロ経済学の先生とマクロ経済学の先生の二人に教わっていた。一年間で習う範囲はかなり広く、社会に出たことのない高校生が学ぶには負荷のある授業内容であったと思う。小テストも頻繁にあり、気の抜けない教科であったが、最も興味深かった。授業はDiscussion形式ではなく、Seminar形式といえる。先生が話すのが半分、生徒が先生に当てられて発言、もしくは質問が半分のような進み方であった。どの題材でも、まずは単語の定義、そして経済理論の説明、実際の例、そしてEvaluation（評価：政策の有用性など）の順に進めていった。

リモート授業について

時間割は通常と同様で、時差のため、夕方から夜にかけて授業を受けた。半分の授業は「Contact Hour」で、Skypeを用いた通話授業であった。先生はPowerPointを映しながら話す、もしくは電子黒板ソフトに板書する様子を映しながら話していた。これは通常の対面授業とほぼ同じ様子である。PowerPointや板書はOneNoteで生徒に共有される。

残り半分の授業は「Non-contact Hour」で、自習時間であった。これは、以前まで対面授業で行っていた、プリントの空欄を埋める、問題演習をする、小テストを行うといった、教員との通話が不要な作業を行う時間である。Non-contact Hour の課題も OneNote で生徒に共有される。さらに、通常通りエッセイなどの課題も出る。課題量は通常と変わらなかった。前述の Non-contact Hour の課題と普通の宿題は、全て OneNote に投稿し、教員が採点する。

今後の派遣留学生へのアドバイス

日本については熟知していてほしい。Winchesterが留学生を受け入れる理由は、単に学力の高い生徒を求めているからではないはずだ。自分自身も「天皇が変わったことへの世論」、「日本でのトランプ大統領の評価」、「英国の政治は不安定だが、日本はどうか」など、回答に詰まる日本についての質問はよくされた。また、Divでは歴史や文学を教える先生が多いので、ある程度の英国史の教養を身につけた方が良いだろう。その他の教科については、日本で予習するよりも、上述した通り思考力や論理性を大事にしてほしい。全教科においてこれらの能力は不可欠である。経済学の先生は、幾度となく「chain of reasoning」について強調していた。

留学中は、自分が恵まれた環境に身を置いていることを忘れないでほしい。世界最高水準の高校に留学するということは、人生において極めて貴重な経験であるからだ。Winchester は確かに生徒に多様な機会を与えるが、それは自分が自発的に動いた場合のみである。勉強、課外活動問わず、一年間でどれだけ自己の可能性を拡げられるか、これは自分自身にかかっている。また、英国で屈指の教員陣、各国から集まる優秀な生徒、個性豊かな寮の友達など、此処でしか出会えない人々との交流も大切であると思う。最後に、日本から斯くの如き名門校へと留学するわけであるから、当然、精神的重圧や苦悩はある。しかし、成長する余地は無限大だ。想像を超える一年間に挑んでほしい。

以上